2023年度
環境社会活動報告書

Environmental and Social Activities Report

日華化学株式会社
NICCA CHEMICAL CO., LTD.

Contents

2023年度 環境社会活動報告書について 3
コーポレートウェブサイト 3
トップメッセージ 4
パーパス、経営ビジョン 5
会社概況 6
SDGsへの取り組み 7
マテリアリティ（重要課題） 7

環境 Environment

環境マネジメントシステム 9
事業活動における環境への影響 10
環境目標 11
トピックス 12
・繊維化学品：Smart Dyeing Process
・クリーニング ：環境配慮型中性濃縮粉末洗剤「シロック B-750」
・特殊化学品：段ボール古紙対応ピッチコントロール剤「ニッカソルト PC-100」
・化粧品 ：サステナブルな社会に向けた取り組み
環境データ 17
化学物質管理 19

社会 Social

労働安全衛生マネジメントシステム 21
労働安全衛生目標 22
安全に対する取り組み 24
地域・社会との関わり 25
品質監査、安全衛生監査、環境監査 27

Appendix

ISOマネジメントシステム認証取得状況 29
用語集 30

2023年度 環境社会活動報告書について

■編集方針

「2023年度 環境社会活動報告書」は、日華化学グループの環境活動や社会活動に関する取り組みをステークホルダーの皆様に向けてお伝えすることを目的として編集しています。

■参考としたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン2018」

■報告対象期間

2023年1月1日～2023年12月31日
＊一部、上記期間以外の情報についても報告しています。

■発行日

2024年6月

■報告対象組織

日華化学株式会社
＊一部、日華化学グループの情報として子会社も含めて報告しています。
＊「当社」「単体」は日華化学株式会社を指します。
＊各ページの上部アイコンで、日華化学株式会社と日華化学グループの情報を識別しています。

日華化学株式会社　日華化学グループ

■作成部署・お問い合わせ先

本報告書へのお問い合わせは、下記までご連絡ください。

日華化学株式会社　安全環境委員会、品質保証委員会
TEL：0776-24-0213（代表）
お問い合わせフォーム
https://www.nicca.co.jp/contact/

コーポレートウェブサイト

当社では、コーポレートウェブサイト内のお問合せフォーム、代理店向けの専用サイト、フリーダイヤル、お客様相談室などを通じて、お客様よりお寄せいただいたお問い合せに、迅速かつ正確にお答えしています。
また、いただきましたご意見は、お客様がご満足いただける製品づくりの参考としています。

日華化学株式会社
https://www.nicca.co.jp/

上記のURLをクリックすると、当社コーポレートウェブサイトにアクセスできます。また、右側のQRコードからもコーポレートウェブサイトにアクセスできます。

トップメッセージ

激変する経営環境をビジネスチャンスへと昇華し、社会からますます必要とされる価値を提供する事業に注力することで、持続可能な社会の実現に貢献いたします。

代表取締役社長　江守 康昌

はじめに

ステークホルダーの皆さまには、平素より私たち日華化学グループに温かいご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社グループは、「世界中のお客様から最も信頼されるイノベーション・カンパニー」を目指し、経営軸の一つに「サステナビリティ」を定めています。
私たちの考える「サステナビリティ」とは、環境や社会の変化に積極的に対応し、付加価値の高い製品やサービスを提供することで人々のくらしを豊かに輝かせ続けることです。2025年までの中期経営計画「INNOVATION25」においても、「環境/Environment」「健康・衛生/Health」「先端材料/Digital」の3つの領域（EHD事業）に軸足を置いた事業構造に大きく転換し、社会課題の解決に貢献することを目指しております。

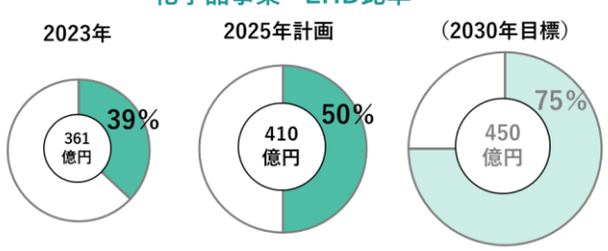
これからも当社グループの永続的成長とともに、未来に渡り、社会・地球環境の持続可能な発展に貢献してまいります。

中期経営計画「INNOVATION25」について

中期経営計画「INNOVATION25」（2021年2月公表、2023年2月内容更新）では、不透明な経営環境が今後も継続する中、「規模」よりも「質」的成長の優先が大きな経営課題となる3年間（2023年～2025年）と認識し、界面カガクのちからで社会課題を解決し、人を、社会を、未来を輝かせる『世界中のお客様から最も信頼されるイノベーション・カンパニー』、を中長期成長ビジョンとして掲げております。
そして、中期経営計画の５大戦略である「事業構造の大転換」「メリハリのある投資」「生産性改革」「サステナブル経営の推進」「大家族主義の進化」の推進に、現在取り組んでいるところであります。

■「事業構造の大転換」
大きな社会課題である「E/環境」「H/健康・衛生」「D/先端材料」領域に事業を集中させる「EHDシフト」を推進してまいります。
特に、化学品事業はEHD比率の向上余地が大きく、EHD比率が高まれば全体の収益性が高まることから、化学品事業におけるEHD製品の売上比率を2025年度には連結売上高の50%を、2030年には75%を目指しております。(2023年で39%)

化学品事業　EHD比率



■「メリハリのある投資」
投資方針として「EHDシフトと効率化の投資に集中」、「ROIC（投下資本利益率）で事業毎の投資効率を管理」を掲げ、投資効率の高いものを厳選しメリハリをつけた投資を行ってまいります。

■「生産性改革」
積極的なDXの推進により効率アップ＆PH（パーヘッド）向上を図ると共に、様々なデータを分析・活用することにより新たな価値創出につなげてまいります。
PH営業利益は、2025年には2020年比で2.5倍を目指しています。

■「サステナブル経営の推進」
2030年までにグループ全体のCO2実質排出量を2018年比で30%削減する事を目指します。

■「大家族主義の進化」
EHDシフトにより、社会課題にチャレンジする人材が集い、持てる力を最大限発揮できるように大家族主義を進化させてまいります。

中期経営計画「INNOVATION25」の全社基本戦略

「事業構造の大転換」「メリハリのある投資」「生産性向上」を加速させることが数値目標達成の鍵

■ INNOVATION25「5大戦略」

1．事業構造の大転換
2．メリハリのある投資
3．生産性改革
4．サステナブル経営の推進
5．大家族主義の進化

おわりに

本書は、当社グループのパーパスおよび経営ビジョンのもと、環境・安全・社会活動に関する取り組みの現状をまとめたものです。
ステークホルダーの皆さまにおかれましては、今後とも一層のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

パーパス、経営ビジョン

1941年創立以来、当社は「社是・社訓」や「製品を売るにあらずして技術を売る」「大家族主義」を企業理念とし、歴史を紡いできました。
2023年に制定したパーパス「Activate Your Life」は、無限に広がる界面カガクのチカラで様々な社会課題を解決し、より豊かな暮らしや輝く未来に貢献していきたい、という当社の存在意義・提供価値を表した言葉です。

パーパス

輝け、カガクで。
Activate Your Life

※日華化学グループの存在意義であり、社会に貢献することでわたしたちも輝きたいという想いが込められています

経営ビジョン

世界中のお客様から最も信頼される
イノベーションカンパニー

※わたしたちが大切にする価値観に基づいて、長期的に目指したい会社の姿を表しています

企業理念（創業以来大切にしている価値観）

■社是・社訓
■製品を売るにあらずして技術を売る
■大家族主義

社是（わたしたちが目指す姿）

一．われらは需要家に奉仕する
私たちはお客様と感動を共有できる高い品質を提供し続けます。

一．われらは会社の繁栄に徹する
私たちは絶えず進化し成長し続けます。

一．われらは社員の幸福を願う
私たちはひとりひとりが活き活きと働く環境をつくります。

社訓（わたしたちの日々の誓い）

一．我れ誠実にそむくこと無かりしか
志を高く持ち、誠意をもって取り組みます。

一．我れ勤勉に欠くこと無かりしか
積極果敢に挑戦し、自分を高めます。

一．我れ信用をそこなうこと無かりしか
日々の努力を積み重ね、信用を築きます。

会社概況

当社グループは、界面科学と毛髪科学を基盤とし、繊維加工をはじめ、金属加工、紙・パルプ、クリーニング、メディカルの各業界向け薬剤、また化粧品などをさまざまな分野のお客様に提供する化学メーカーです。

私たちが創業以来大切にしているものの一つに、「製品を売るにあらずして技術を売る」という信条があります。その信条の通り、当社は1941年の創立から、創業地福井をはじめ、国内はもとより世界各国の主要な繊維産地を背景に培った技術・ノウハウを活かしながら、お客様とともに課題を解決し、技術やサービスを提供しております。

社名（商号）	日華化学株式会社
本社所在地	〒910-8670　福井県福井市文京4-23-1 TEL:0776-24-0213（代）
創立	1941年9月15日
資本金	28億9,854万円
代表者	代表取締役社長　　江守康昌 代表取締役副社長　龍村和久
上場	東京証券取引所スタンダード市場、名古屋証券取引所プレミア市場（証券コード 4463）
決算期	12月末日（6月末中間決算）
売上高	（連結）501億円（ 2023年12月期 ）
従業員数	（連結）1,500名（ 2023年12月31日現在 ）
事業内容	1. 繊維工業用界面活性剤の製造、販売 2. 金属、製紙、塗料、染料、合成樹脂用界面活性剤の製造、販売 3. クリーニング、業務用洗剤の製造、販売 4. 化粧品・医薬品の製造、販売

繊維化学品	日華化学は、1941年の繊維加工用界面活性剤の開発から始まりました。創業以来、洗い工程である精練から仕上げまでの繊維加工の一連工程を網羅し、各工程や素材ごとに必要となる多種多様な薬剤を提供しています。工程全体を俯瞰できる強みを生かし、新たなアイディアやノウハウを生かした技術開発に取り組むことで、日本のみならず世界の繊維産業をリードします。
特殊化学品	金属や紙、プラスチック材など、モノづくりに欠かせない素材が製造・加工される際にも、界面活性剤は重要な役割を担います。日華化学は、洗浄剤や消泡剤をはじめとする工程薬剤、素材に付加価値を与える機能薬剤などの製造・提供で、モノづくりの現場を科学で支えています。
機能化学品	昨今の安全性・快適性需要拡大に対し、日華化学が長年培った界面科学、樹脂技術で高機能・複合要素ニーズに貢献します。環境に配慮したウレタン樹脂、フッ素、シリコーン、アクリル等幅広い機能化学素材、合成、複合化技術及び高度な生産技術にて、お客様のモノ作りにスピーディにお応え致します。
クリーニング	繊維業界で培われた確かな経験と技術を活かし、1958年にクリーニング分野へ進出。現在では、ホームクリーニングとリネンサプライの両分野において、洗いから仕上げに至るまでの各工程で使用される薬剤を製造・販売しております。「環境に配慮した人と暮らしにやさしい薬剤」をコンセプトに、皆様に安全で安心してお使いいただける製品を提供します。
メディカル	業務用クリーニングの薬剤を開発してきた知見を生かし、より高度な技術と品質が求められる医療・福祉現場の洗浄分野にも展開しています。"洗浄"をキーワードとして、各種医療器具専用の洗浄剤・消毒剤の協業開発や、衛生管理製品の開発も行っています。
先端材料	近年、高度化する市場要求に対応するために、ナノ構造材料を用いた新しい 用途への応用開発が不可欠となっております。ナノテクノロジーに欠かせない 界面科学の知見を活かし、ナノ粒子、電子材料等、 さまざまな技術展開を進めています。
化粧品	「洗う」「滑りをよくする」「染める」など、繊維部門で培った技術を同じく“繊維”である毛髪に応用。「お客様の髪の健康と美しさの追求」をテーマとするブランド「デミ コスメティクス」を展開し、研究開発を行っています。市場の声に耳を傾けて開発されるヘアカラー・パーマ剤や、ヘアケア・スタイリング製品等を通じて、豊かで快適な生活に貢献しています。

SDGsへの取り組み

事業活動を通じ持続可能な世界を目指すSDGsに取り組みます。

1941年の創立以来大切にしてきた、「製品を売るにあらずして技術を売る」というNICCAスタイルを変えることなく事業継続すると同時に、「私たちの暮らし（地球～地域）を」「未来を」輝かせるために国際社会で合意された「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成に貢献していきます。

日華化学グループとして【経営理念：お客様、社員、株主、そして社会から信頼され選ばれる企業を目指す】ためにも、事業を通じて社会に対し新たな価値・技術を創出し、〝未来からも選ばれる〟企業になるために、一歩一歩前へ進み続けます。

マテリアリティ（重要課題）

中期経営計画「INNOVATION25」にて「サステナブル経営の推進」を全社基本戦略に掲げ、2030年までにグループ全体のCO2実質排出量を30%削減（2018年比）することを新たに経営目標に加える等、社会に貢献する企業として、これまで以上に積極的な取組みを推進してまいります。

環境：地球環境をもっときれいに

- 2030年、グループ全体のCO_2実質排出量を30%削減へ（2018年比）
- 地球環境に関する社会的課題を解決する事業に注力することで、持続可能な社会と循環型経済の実現に貢献
- 「ケミカルグリーンコンセプト」を掲げ、化学物質の管理強化とお客様の環境負荷低減に寄与
- 環境に配慮した容器・包装材料の使用を積極的に推進
- 省資源、省エネルギー活動の実施

くらし：人々のくらしと生活を快適に

- 世界中の人々の健康と豊かな暮らしに貢献する事業への注力
- スポーツアパレルへの機能加工やクリーニング用薬剤など健康で清潔なくらしに貢献する製品を提供
- 髪の健康と美しさを追及する画期的な化粧品の開発
- 抗菌・抗ウイルス製品で感染症予防に貢献
- デジタルデバイスや半導体など先端情報技術分野で必要とされる技術・材料領域での新規事業を創出・育成

社会：社会をより豊かに

- 多様な人材が集い、高いモチベーションで持てる力を最大限発揮できるように"大家族主義"を進化させる
- 「人材」の多様性と「働き方」の多様性を尊重するダイバーシティの深耕
- 社員の「働きがい」向上に繋がる様々な取組みを実施
- 地域社会との共生と住み良いまちづくりへの貢献
- 新興国からの留学生支援や身体障害者への奨学支援を積極的に実施
- 健康経営の推進

環　境
Environment

環境活動に関する取り組みのトピックスを以下のようにまとめました

- 環境マネジメントシステム
- 事業活動における環境への影響
- 環境目標
- トピックス
  - ・繊維化学品：Smart Dyeing Process
  - ・クリーニング　：環境配慮型中性濃縮粉末洗剤「シロック B-750」
  - ・特殊化学品：段ボール古紙対応ピッチコントロール剤「ニッカソルト PC-100」
  - ・化粧品　　：サステナブルな社会に向けた取り組み
- 環境データ
- 化学物質管理

日華化学株式会社

環境マネジメントシステム

当社は環境マネジメントシステムであるISO14001（環境マネジメントシステム）を環境活動の基盤とし、環境方針を定めて環境活動に取り組むことで、ケミカルグリーンコンセプト「全員参加で自ら築くやさしい環境」を実践しています（下図参照）。様々な化学物質を取り扱う化学メーカーとしての社会的責任を果たすため、今後も継続的に環境活動を推進してまいります。

■環境方針

理念

わたしたちは、環境や社会の変化に積極的に対応し、付加価値の高い製品やサービスを提供することで、
持続可能な社会の実現に貢献いたします。

環境活動指針

1. わたしたちは、環境に配慮した製品を提供します。
- ① CO_2削減をはじめとしたお客様での環境負荷の低減に貢献します。
- ② 自然由来成分、天然系素材、バイオ系原料を用いた製品開発に注力します。
- ③ 環境に悪影響を及ぼす化学物質を適正に管理し、環境汚染の未然防止に努めます。

2. わたしたちは、循環型経済社会の実現に寄与します。
- ① 省資源、省エネルギー活動を実施するとともに、再生可能エネルギーの利用を積極的に推進します。
- ② 廃棄物の発生抑制と再利用を促進し、環境負荷の低減に努めます。
- ③ 環境に配慮した容器・包装材料の使用を積極的に推進します。

3. わたしたちは、持続可能な地域社会づくりに貢献します。
- ① 地域住民の一員として、社会貢献活動を積極的に推進します。
- ② 環境関係法規制をはじめとした各種コンプライアンスを徹底します。
- ③ 環境保全に関する適切な教育と訓練を実施し、環境意識の向上に努めます。

2022年2月1日 改訂
代表取締役社長
江守 康昌

■ケミカルグリーンコンセプト

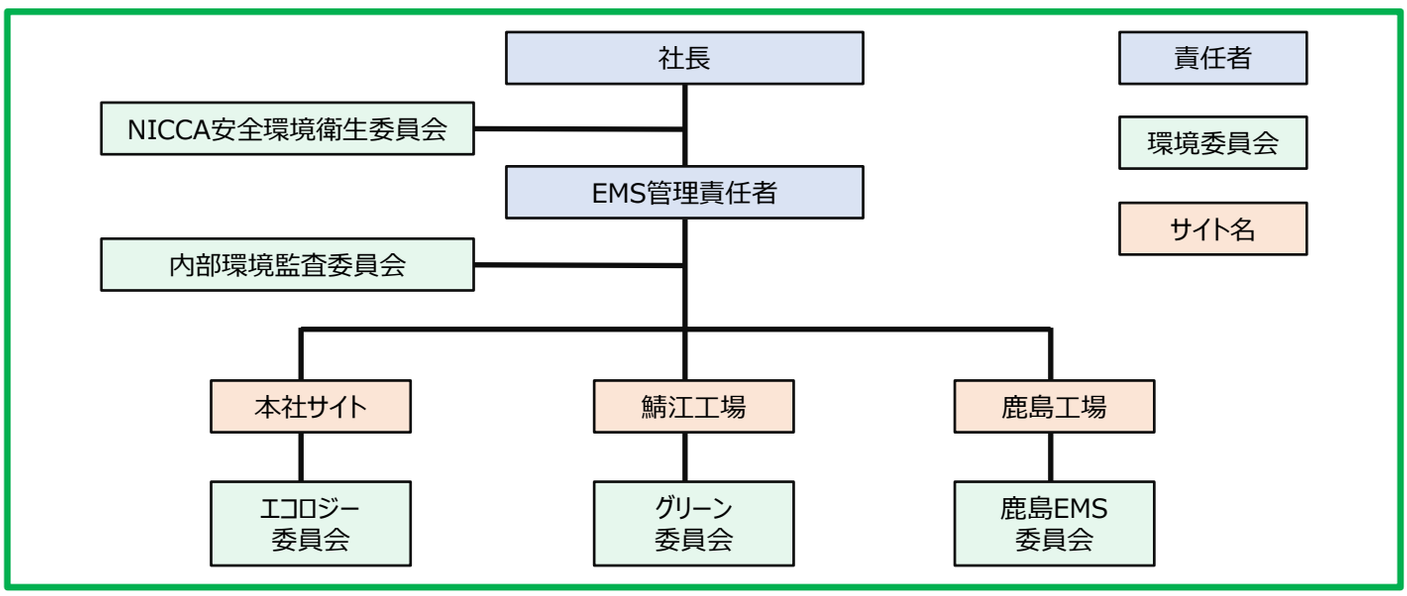
「全員参加で自ら築くやさしい環境」

- ●地域のみなさまが住みやすい環境　（地域満足）
- ●お客様が安心してお使い頂ける製品とサービス（顧客満足）
- ●みんなが気持ちよく働ける職場　（社員満足）

日華化学株式会社

■環境マネジメントシステム組織図

当社の環境活動に関する管理体制は、社長が選任した環境マネジメントシステム管理責任者（EMS管理責任者）のもと、各サイトに環境委員会を設置して環境活動を推進しています。EMS管理責任者は、毎年11月下旬～12月上旬の期間中に各サイトの活動状況を社長に報告し、社長から発信される次年度の活動方針を各サイトに指示しています。



事業活動における環境への影響

当社は化学メーカーとしてエネルギーや資源を消費し（下図「Input」参照）、製品を生産し、その工程で発生する不要物を適切な環境処理のもとに排出・移動しています（下図「Output参照」）。これら事業活動における環境物質フローを一貫した管理のもとで監視し、環境負荷の低減に努めています。各環境データの詳細は「P17～P19/環境データ」をご参照ください。

Input

原材料

原材料	16,344 ㌧

エネルギー

燃料*1	245 KL
電力	9,568 千kwh
LNGガス	481 ㌧
都市ガス	1,336 m^3

水資源

水使用量*2	222,749 m^3

*1燃料　　：重油+灯油+軽油+ガソリン
*2水使用量：地下水+上水道+工業用水

事 業 活 動
・研究開発活動
・生産活動
・営業活動　など

総生産量：29,161 ㌧

Output

廃棄物

総排出量	1,569㌧
内リサイクル量	501 ㌧

大気

CO_2*1	4,142 ㌧-CO_2
SO_X*2	582 Nm^3
NO_X*2	697 Nm^3
煤塵*2	76 kg

排水

排水量	144,873 m^3
BOD*2	10,879 kg
COD*2	4,431 kg
SS*2	6,149 kg

*1営業車使用によるCO_2も含んでいます
*2用語の意味は「P30/用語集」をご参照ください

*上図は日華化学単体のデータです（営業所等を含む）

日華化学株式会社

環境目標

ISO14001認証を取得している各サイト（本社サイト、鯖江工場、鹿島工場）では、毎年12月に次年度の環境目標を定め、実施計画を策定し、年間を通して様々な取り組みを実施しています。2023年度に掲げた目標と活動の達成状況は下記の通りです。
未達となった目標は、次年度も取り組みを継続しています。

【自己評価】〇：達成　△：一部分が未達　×：大きく未達または進捗無し

サイト	2023年度 目標	2023年度 実績	自己 評価
本社サイト *1	■CO_2排出量削減 目標：対2018年より11%削減	■11.4%削減	〇
	■梱包材の見直しによる廃棄物量削減 目標：400kg/年削減	■444kg/年削減	〇
	■環境事故防止 目標：ヒヤリハットも含めて事故0件	■ヒヤリハット（漏洩）1 件 ※社外への流出は無し	△
鯖江工場	■CO_2排出量削減 目標：2,858t/年以下の排出	■2,646t/年	〇
	■排水量削減 目標：54,638 ㎥/年以下の排水	■48,722 ㎥	〇
	■廃棄物量削減 目標：858t/年以下の排出	■782t	〇
	■工程管理不備/設備誤操作による漏洩防止 目標：0件	■排水規制値逸脱2件 ■排水工場外漏洩1件 ■漏洩ヒヤリハット5件 ■臭気ヒヤリハット1件	×
鹿島工場	■CO_2排出量削減 目標：205t/月以下の排出	■184 t /月	〇
	■排水量削減 目標：5,387㎥/月以下の排水	■4,833㎥/月	〇
	■廃棄物量削減 目標：46.5t/月以下の排出	■37.5t/月	〇
	■環境事故/環境ヒヤリハット防止 目標：0件	■環境事故0件 ■環境ヒヤリハット0件	〇
	■エチレンオキシドの大気排出量削減 目標：2022年より77%削減	■87.1%削減	〇

*1本社サイトは化粧品製造所も含む

繊維化学品：Smart Dyeing Process（スマート ダイイング プロセス）

■CO_2削減、節水を実現する「Smart Dyeing Process（スマート ダイイング プロセス）」

世界中のアパレル企業がCO_2削減や水使用削減をはじめとしたサステナブル生産へと転換する中、日華化学グループはアパレル産業の環境課題に貢献するソリューションとして「Smart Dyeing Process（スマート ダイイング プロセス）」のご提案を開始しました。

「Smart Dyeing Process（スマート ダイイング プロセス）」は持続可能な社会の実現のために、既存の精練*、染色工程を見直し、工程削減・短縮、排水の公害値低減などをねらった、サステナブルな染色加工の実現を目指したソリューションの総称であり、環境負荷低減、生産効率向上、作業環境改善に貢献する加工処方のご提案です。

*繊維・繊維製品に付着している天然不純物、油剤などを取り除く染色の前工程

SMART DYEING PROCESS

私たちは「Smart Dyeing Process」に関するソリューションを3つの「Smart」で表現しています。

Energy Smart

「エネルギー消費・CO_2排出の削減」を提案

Water Smart

「節水」「排水負荷低減」を提案

Work Smart

「作業環境改善」を提案

「Smart Dyeing Process」の確立にはテクニカルサポートが不可欠です。当社グループは創業以来、染色加工におけるテクニカルサポートに力を入れてきました。現在では、世界10の国と地域、14拠点の現地スタッフが、加工処方の確立から薬剤の供給までをサポートしています。

【推奨製品】※詳細な情報は各URLより参照ください

・テキスポート SD-125／堅牢度向上剤
https://nctexchem.com/jp/product/process/dyeing/recommend/texport/sd125/lp.html
・テキスポート SD-118／堅牢度向上剤
https://nctexchem.com/jp/product/process/dyeing/recommend/texport/sd118/lp.html
・エスクード RC-0100／ポリエステル用液体還元洗浄剤
https://nctexchem.com/jp/product/process/dyeing/recommend/eskudo/rc-0100/lp.html
・サンモール MC-2000／ポリエステル用液体還元洗浄剤
https://nctexchem.com/jp/product/process/dyeing/recommend/sunmorl/mc-2000/lp.html
・サンモール BH-220／過酸化水素漂白用精練剤
https://nctexchem.com/jp/product/process/preparation/recommend/sunmorl/bh-220/lp.html
・テキスポート SKY／色ブレ防止剤
https://nctexchem.com/jp/product/process/dyeing/recommend/texport/sky/lp.html
・テキスポート PEEL／ポリエステル用オリゴマー防止剤
https://nctexchem.com/jp/innovation/solution/problem1.html
・エスクード M-200／ポリエステル/綿用ソーピング剤
https://nctexchem.com/jp/innovation/technology/develop3.html

*供給可能な国・エリアは製品によって異なりますので、お問い合わせフォームよりお気軽にご連絡ください。

日華化学株式会社

クリーニング：環境配慮型中性濃縮粉末洗剤「シロック B-750」

■環境配慮型洗剤の開発

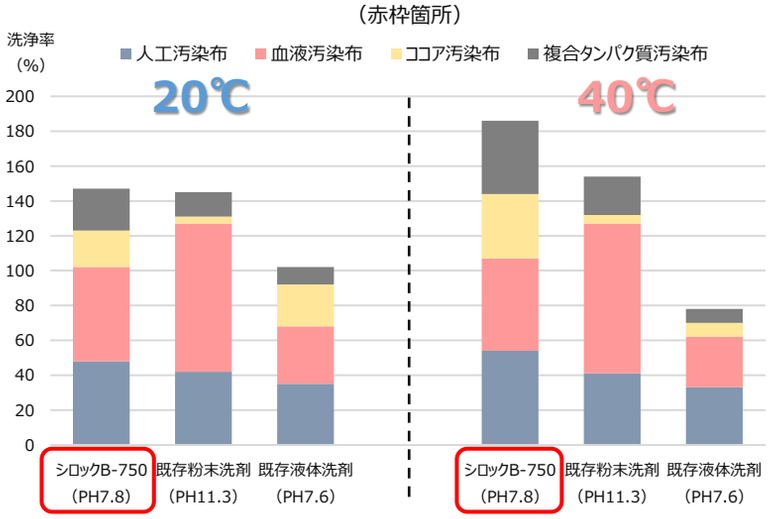
業務用クリーニング洗剤においても環境問題は避けては通れない課題です。当社は高い洗浄力はそのままに、クリーニング業界で求められている環境配慮を開発コンセプトとし、「節水・省エネ・ゴミ削減」に繋がる環境配慮型中性濃縮粉末洗剤「シロック B-750」を開発しました。

「シロック B-750」は中性の粉末洗剤で、「3倍濃縮タイプ、ポリエステル対応、抗菌効果、酵素配合、移染防止効果」が特徴です。従来の中性洗剤は液体タイプが主流になっていますが、粉末にすることで、洗浄力、使い勝手が向上しました。*

*洗剤に含まれる酵素や再汚染防止剤は、液体より粉末の方が性能が安定します

さらにポリエステル製品の洗浄性能に優れる特殊界面活性剤と酵素の技術により、低温洗浄でも高い洗浄力を実現しました。ダウンジャケットやふとん・毛布・寝具類、医療向けユニフォームなど、幅広い用途に活用することができます。

「特殊界面活性剤＋酵素」の技術で、中性でありながらも既存のアルカリ粉末洗剤と比較しても良好な洗浄力を発揮します（赤枠箇所）



*洗浄条件：terg-o-tometer
1L浴 90rpm 20℃、40℃×10 分 最適濃度にて洗浄

汗や皮脂をはじめとした人体から発生する汚れには酵素による洗浄力が活かされます。また、中性なので手肌や繊維を傷める心配も少ないやさしい洗剤です。

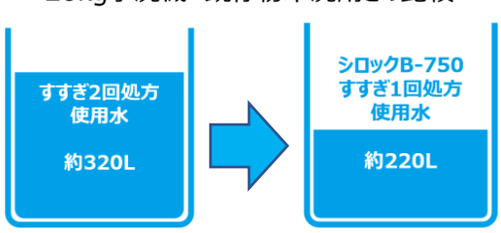
■「節水・省エネ・ゴミ削減」を実現

「シロック B-750」は「節水・省エネ・ゴミ削減」の3つの切り口から環境への負荷低減に貢献いたします。

節水

中性＋抗菌剤配合により、すすぎ回数の削減が可能です。

20kg水洗機　既存粉末洗剤との比較

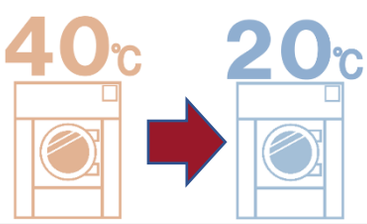


すすぎ1回減で
使用水100L
削減

省エネ

酵素＋特殊界面活性剤の効果で洗浄温度を下げる事が可能です。

20kg水洗機　既存粉末洗剤で40℃すすぎ2回洗いとの比較



重油削減量
年間 約103L

ガス削減量
年間 約100m³

ゴミ削減

3倍濃縮したことによりパッケージが従来品よりコンパクトになります。容器重量保管スペースが削減されるだけでなく、取り扱い時の負担が大幅に軽減されます。

従来の15kg入り容器との比較

段ボール重量
約57%削減

保管スペース
約60%削減
（体積比）

日華化学株式会社

特殊化学品：段ボール古紙対応ピッチコントロール剤「ニッカソルト PC-100」

■段ボールは環境にやさしい持続可能な包装資材

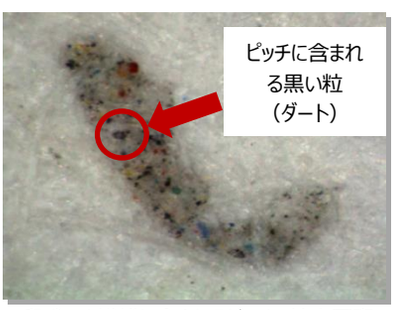
私たちが手にする電化製品、食料品、飲料、青果物、日用品、事務用品、衣料品など日々の暮らしで必要な商品は、ほとんどが段ボールに包装され、安全にしっかりと保護されて届けられます。そして、役目を終えた段ボールは、そのほとんどが古紙回収業者などを通じて回収され、リサイクルされて何度も新しい段ボールに生まれ変わります。

段ボールは100%再生可能な天然素材（木材）で作られており、リサイクルシステムも確立している環境にやさしい包装資材です。日本では古紙回収・製紙・段ボールの3つの業界が三位一体となって資源循環を支えており、段ボールの古紙回収率は95%以上、古紙の利用率は90%以上を誇ります。使用済み段ボールはゴミではなく貴重な資源といえます。また、天然素材で作られているため、万が一リサイクルされずに放置された場合でも、最後には土に還るため環境に与える負荷も非常に少ないです。
（出典：全国段ボール工業組合連合会）

■リサイクル工程の課題

このように段ボールは環境に対して非常に優れた包装資材ですが、循環型社会の構築に向けてリサイクルを更に進めるためには課題も残っています。その一つが、ガムテープ（布テープ）や粘着テープの混入です。
ガムテープ類の粘着面に含まれる樹脂成分はゴムと同様の性質を有しており、再生工程の中でも分散することが難しく、ピッチと呼ばれるチリや汚れとなって残ってしまいます。このピッチが機械トラブルの発生による操業への悪影響や段ボールの品質低下の原因となります。

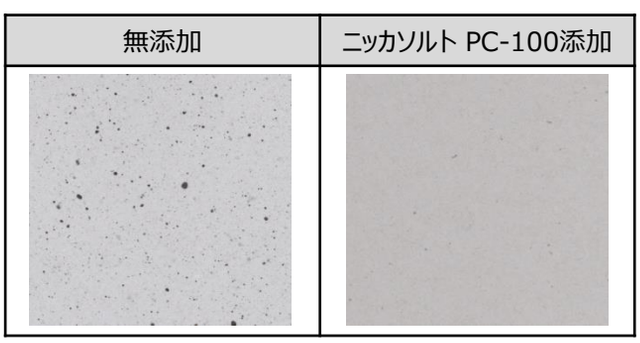
ガムテープ（布テープ）に含まれる
樹脂成分がピッチの原因となります



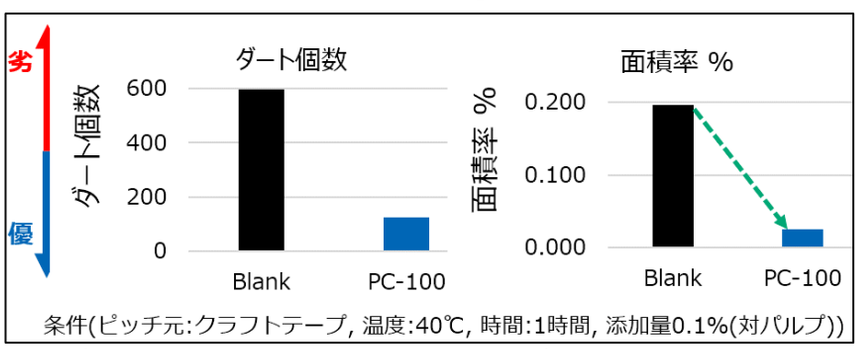
段ボール繊維に含まれるピッチの拡大写真

■ピッチ問題の解決

このピッチ問題は段ボールのリサイクルにおける重要課題となっており、長年にわたってピッチコントロール剤（ピッチトラブルを防止する薬剤）の開発が熱望されていました。今回、新たな独自技術の開発により生まれたピッチコントロール剤「ニッカソルト PC-100」は、ピッチの「化学分解を促進」することにより、トラブルの原因となるピッチを86.8%除去することに成功しました（「ニッカソルト PC-100」無添加との比較）。



黒い粒はダートと呼ばれ、紙面では黒い斑点になります



ピッチの除去により、Blank（無添加）と比較して大きくダートを削減することができます

ピッチの除去により再生紙の品質は大きく向上します。更に、ガムテープ類が付着した低品質の古紙でも再生可能となることで、段ボールのリサイクル率促進にも繋がります。これからも段ボールのリサイクルに貢献することによって、資源循環を推進してまいります。

化粧品：サステナブルな社会に向けた取り組み

■美しい髪と、美しい環境を目指して

DEMI EraL

近年、世界全体でサステナビリティへの取り組みが広がる中、化粧品業界においてもサステナブルな社会の実現を目指すことが求められています。シャンプーをはじめとする様々な化粧品は私たちの生活と密接に関係しており、QOL（クオリティー・オブ・ライフ=生活の質）を向上するためには欠かせない存在である一方、容器・包装で用いられているプラスチックに関する問題や、健康・環境にやさしい成分の需要が高まるなど、様々な課題が浮かび上がっています。

日華化学グループの化粧品ブランドであるDEMI COSMETICS（デミ コスメティクス）とEraL（イーラル）は、自らの環境や社会への影響を把握しつつ、サステナブルな社会の実現に貢献いたします。

■バイオマスプラスチック容器の採用

バイオマスとは「動植物から生まれた、再生可能な有機資源」です。バイオマスプラスチックはトウモロコシやサトウキビなど、植物由来の原料を利用して作られています。バイオマスプラスチックを焼却する際にもCO_2は発生しますが、原料となる植物の成長過程でCO_2を吸収するため、大気中に放出されるCO_2の増減は実質ゼロ（カーボンニュートラル）となります。

DEMI COSMETICS（デミ コスメティクス）とEraL（イーラル）では、一部の商品*に使用しているプラスチック容器において、サトウキビ由来のバイオマス素材を使用した環境にやさしいプラスチックを使用しています。

バイオマス配合量：約0.15%～30%

バイオマスPETのポンプ容器　※一部容器を除く

詰め替え用の
スマートecoパック

*以下ブランドの一部の商品に
バイオマスプラスチック容器を採用しています

・DEMI DO（デミドゥ）
・FLOWDIA（フローディア）
・HALEMA'O（ハレマオ）
・UTAU（ウタウ）
・EraL（イーラル）

■FSC認証紙の採用

FSC®認証は、森林の抱える問題を解決しながら将来にわたり森林を利用してゆくための仕組みで、FSC®認証紙は責任ある森林管理や加工・流通の規格に則り作られています。積極的なFSC®認証紙の採用により、環境・経済両面で持続可能な森林管理を支持することができます。商品の個装箱をはじめ、カタログ、リーフレット、ペーパーバッグなどにFSC®認証紙を使用しています。

（FSC：Forest Stewardship Council 森林管理協議会）

FSC
www.fsc.org
FSC® N003650
The mark of responsible forestry

認証を受けた森林からの生産品による製品には、「FSCマーク」が表示されます

写真左側から、FSC®認証紙を採用しているブランド
・HALEMA'O（ハレマオ）の個装箱
・HALEMA'O（ハレマオ）のリーフレット
・UTAU（ウタウ）のペーパーバッグ

その他、DEMI DO（デミドゥ）、
FLOWDIA（フローディア）、EraL（イーラル）など、様々なブランドにてFSC®認証紙を採用しています

■「DEMI店販袋」に再生原料を使用

石油資源の節約とCO_2削減のため、「DEMI店販袋」の使用原料の80%を再生原料を使用したものに変更しました。廃棄物の焼却によるCO_2排出削減と石油資源の節約効果が見込めます。

この袋は厚さ５０μm 以上であり、繰り返し使用することが推奨されています。
この袋は再生原料を８０%使用して作られています。

■再生樹脂パレットの使用

製品の運搬に使用しているパレットは、すべて再生樹脂素材（プラスチック製容器包装などからの再生リサイクル原料）のパレットを使用することで、プラスチック資源のマテリアルリサイクル、CO_2排出削減に貢献しています。

■「TOIROCTION」キャップ小型化の採用

プラスチック量削減を目的とし、2023年6月発売のヘアカラーブランド「トイロクション」のキャップに新形状の小型キャップを採用しました。これにより、リニューアル前のヘアカラー剤と比較し、約55%のプラスチック量削減となります。

現行キャップ　　新形状小型キャップ

2023年度発売ヘアカラーブランド「トイロクション」小型キャップ採用による年間プラスチック削減量見込み	約2.6 t
キャップ小型化によるプラスチック削減量（1個あたり）	約55%

■トランスペアレンシー（透明性）サイトの公開

EraL（イーラル）ではトランスペアレンシーサイトを公開しています。
https://eral.co.jp/transparency/index.html

トランスペアレンシーとは「透明性」を意味します。EraL （イーラル）では、商品に使用する原料のトレーサビリティの把握、持続可能な世界を目指すサステナビリティの取り組み、商品の製造工程や品質へのこだわり等のクオリティ情報について、透明性をもって公開しています。

■植物由来の厳選された成分を使用

近年では価格や機能だけでなく、成分の品質や環境配慮に対する取り組みなどといった付加価値も製品選択の一つに替わってきました。DEMI（デミ）とEraL（イーラル）では、こうしたお客様のニーズに応えるために、原料の由来まで確認された、高品質な成分を採用しています。

＜主な植物由来成分と製品＞

リンゴ果実培養細胞エキス（保湿）

FLOWDIA（フローディア）シャンプー

サジーオイル（エモリエント）
※ヒポファエラムノイデス果実油

UTAU（ウタウ）全製品

プルーン酵素分解物（保湿）

Eral PREMIER（イーラル プルミエ）全商品

※画像はイメージです

環境データ

当社グループは、2018年を基準に「2030年、グループ全体のCO_2実質排出量30%削減」を新たな経営目標として設定したほか、各サイト単位では水資源の使用効率化や廃棄物量の削減など、様々な環境活動を実施しています。

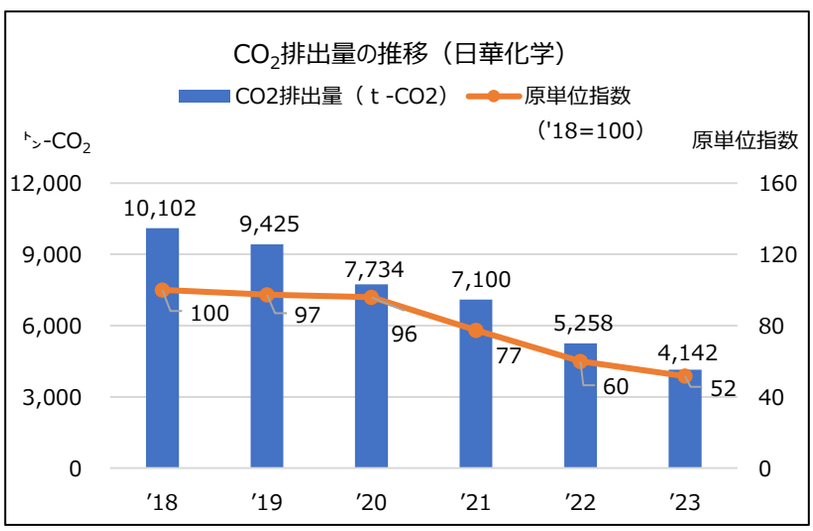
■CO_2排出削減への取り組み

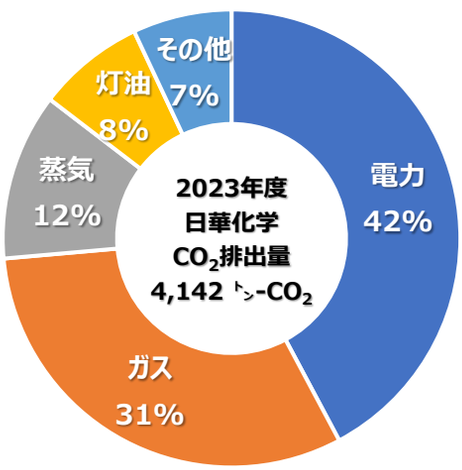
当社グループの事業活動では、電力をはじめとしたCO_2の発生要因となる様々なエネルギーを用いています。こうした現状を踏まえ、グループ全体で最適な生産効率の確立、積極的な省エネ設備の導入、日常的な節電活動といった省エネ活動や改善活動を推進しています。

2021年8月から福井県内事業所（本社・鯖江工場）において北陸電力株式会社のグリーン特約（アクアグリーン）*1を導入し、水力電源100%の電力利用に全量を切り替え、福井県内事業所からの電力由来のCO_2排出量ゼロ*2を実現しました。

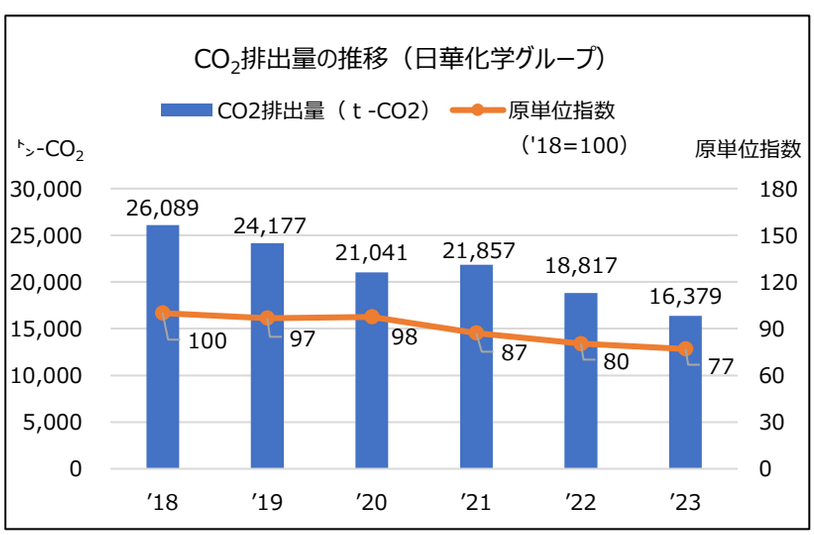
当社グループは、これからもCO_2削減に努め、持続可能な社会の実現を目指してまいります。

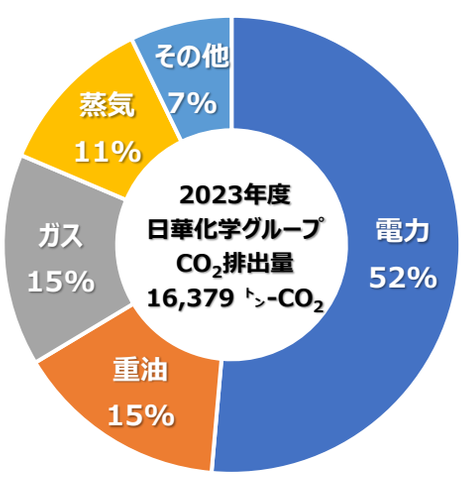
*1 2023年4月より「かがやきGREENピュア」(水力・太陽光・風力等のCO_2 排出量ゼロの"純粋"な「再エネ電気」)にリニューアルされました
*2福井県内事業所の電力由来CO_2 排出量　約2,960ﾄﾝ-CO2が削減されました（対象期間：2022年1月～12月、「A0271 北陸電力㈱調整後メニュー残差」との比較）





*その他：ガソリン、軽油、ガスなど





*その他：軽油、灯油、ガソリンなど

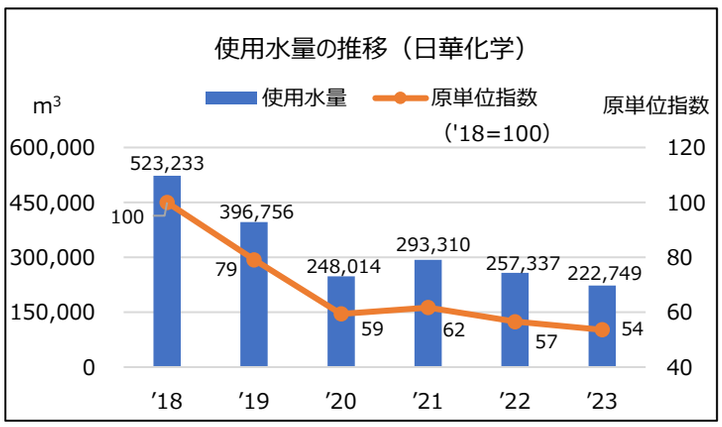
*対象期間：2023年1月～2023年12月（2021年度報告より営業所をはじめとした非生産部門も算定に加えています）
*2022年度よりCO_2算定システムを用いて計算しています。
*CO_2量はScope1とScope2の合算値です
　Scope1＝事業者自らによる温室効果ガスの直接排出(燃料の燃焼、工業プロセス)、Scope2＝他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出
*原単位は生産量（ﾄﾝ）で除した値とし、'18年度を100としています

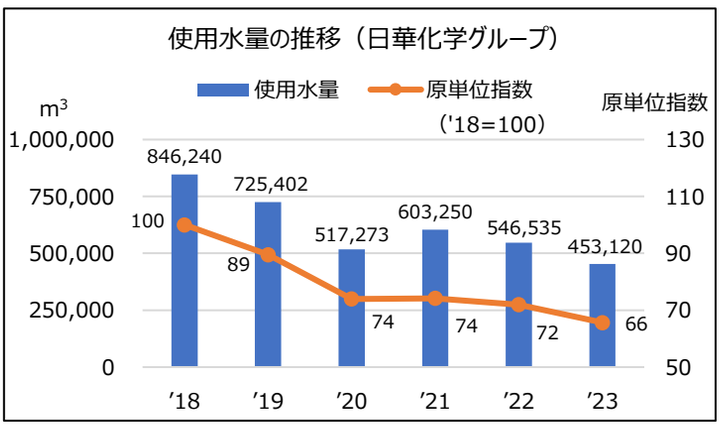
■水資源の使用効率化への取り組み

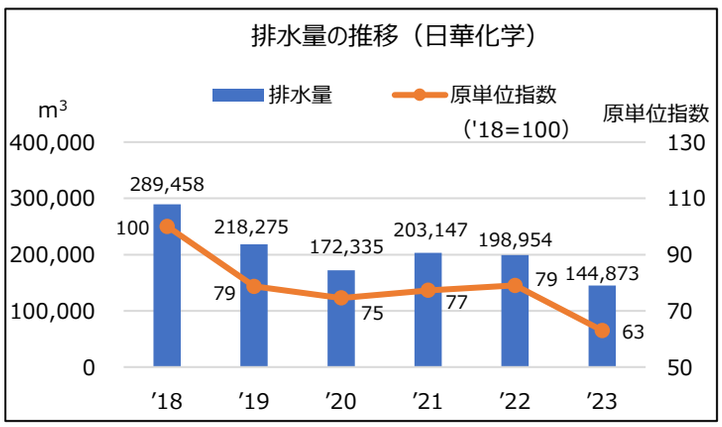
水の使用量は、製品原料としての水分、生産に用いる設備や機器の洗浄水が大きな割合を占めます。また、排水量は生産に用いる設備や機器の洗浄水が大きな割合を占めます。排水中には化学物質が含まれやすいため、特に排水量の削減に力を入れ、環境負荷の低減に取り組んでいます。排水量削減の主な取り組み事例として、生産に用いる設備や機器の洗浄方法の見直しが挙げられます。洗浄方法の見直しは海外も含めた工場間で情報共有し、常に排水量の削減を意識しながら生産活動を行っています。

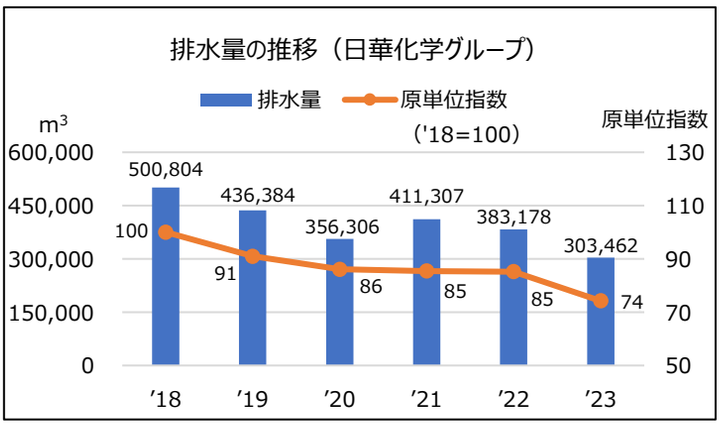
<トピックス>

・2019年は関東工場が閉鎖（7月）、洗浄時に高圧洗浄機を用いるなど洗浄方法の見直しにより、使用量・排水量ともに減少（日華化学）
・2020年は新型コロナウイルスの影響により生産量が減少（日華化学、日華化学グループ）
・2021年から㈱レラコスメチックを追加（日華化学グループ）









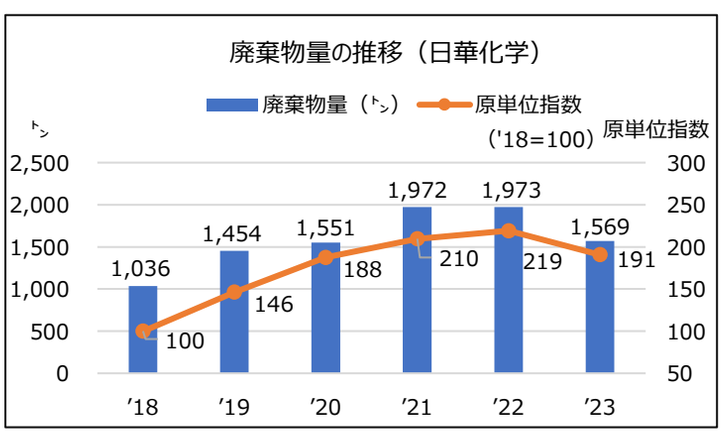
*対象期間2023年1月～2023年12月　*原単位は生産量（ﾄﾝ）で除した値とし、'18年度を100としています

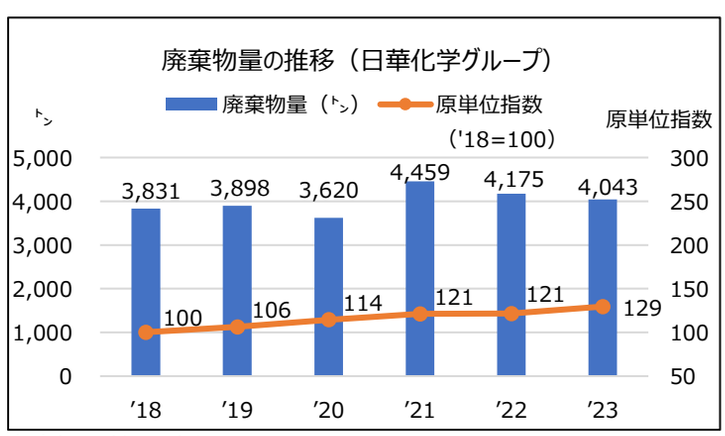
■廃棄物量削減の取り組み

廃棄物量は生産量や長期在庫製品の廃棄量、工場の構造変更（設備の新規設置や変更など）によって生じる建設資材の廃棄量で大きく変化します。従前より取り組んでいる削減活動を継続し、廃棄物量の削減に努めてまいります。

<トピックス>

・2018年に本社サイトの廃棄物受け入れ先である産業廃棄物処理公社の稼働が一時的に停止、稼働が再開した2019年にまとめて排出したことにより廃棄物量が増加（日華化学）
・2021年は鹿島工場では水系ウレタン樹脂製品の生産増加、鯖江工場では釜洗浄水の回収強化により廃棄物量が増加（日華化学）
・2021年から㈱レラコスメチックを追加（日華化学グループ）





*対象期間2023年1月～2023年12月　*原単位は生産量（ﾄﾝ）で除した値とし、'18年度を100としています

日華化学株式会社

化学物質管理

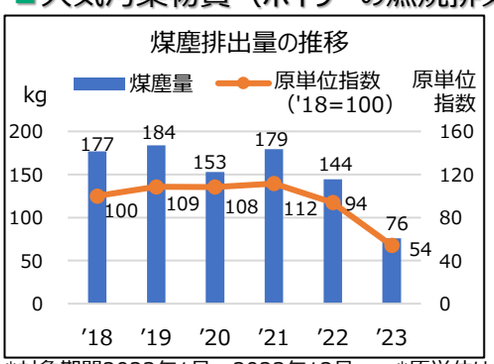
当社は、大気中や水中をはじめとした環境への化学物質排出に細心の注意を払っています。環境への化学物質排出量は、製品に含まれる成分、生産量、廃棄物量などにより大きく変化しますが、基準値を超えることがないよう定期的なモニタリングを実施し、必要に応じて設備投資や設備のメンテナンスなどを行っています。2023年12月には鯖江工場のボイラーを重油燃料から天然ガス（LNG）*1 燃料ボイラーへ変更しました。

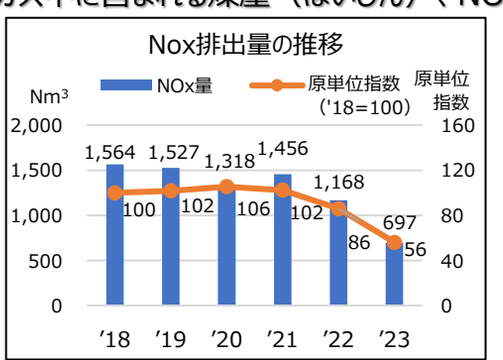
環境への化学物質排出量は定期的に外部の測定機関により測定しています*2。また、本社は福井県知事から計量証明事業所*3の登録を受けており、毎月、各サイト（本社サイト、鯖江工場、鹿島工場）から届く排水などのサンプルから化学物質排出量を測定しています。

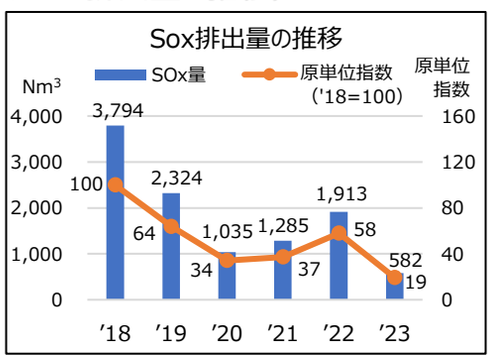
2023年度も各サイトともに環境への化学物質排出量が法令・条令で定められている基準値内であることを確認しました。

*1大気汚染物質の発生量がゼロのクリーン燃料
*2大気汚染物質（1回/年）、水質汚染物質（1回/月）
*3計量法第107条の規定に基づき、その所在地を管轄する都道府県知事の登録を受けた事業所

■大気汚染物質（ボイラーの燃焼排気ガス中に含まれる煤塵（ばいじん）、NOx、SOx排出量の推移）

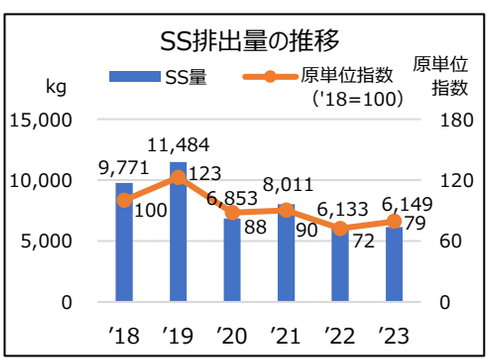


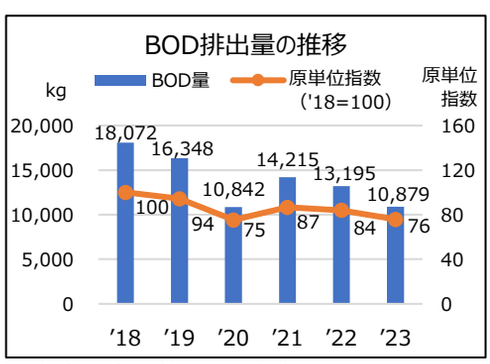


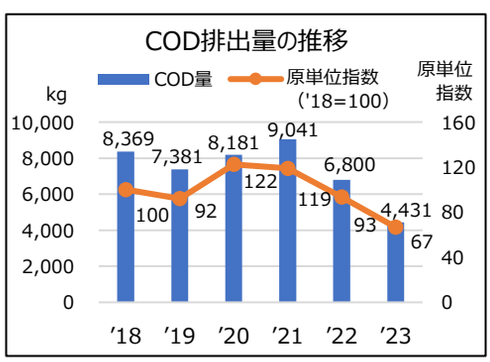


*対象期間2023年1月～2023年12月　*原単位は生産量（ﾄﾝ）で除した値とし、'18年度を100としています
*社内での測定結果を元に、稼働日数と稼働時間から年間の排出量を算定しています
*Nm3、煤塵、NOx、SOxの意味は「P30/用語集」をご参照ください

■水質汚染物質（排水中に含まれるSS、BOD、COD排出量の推移）

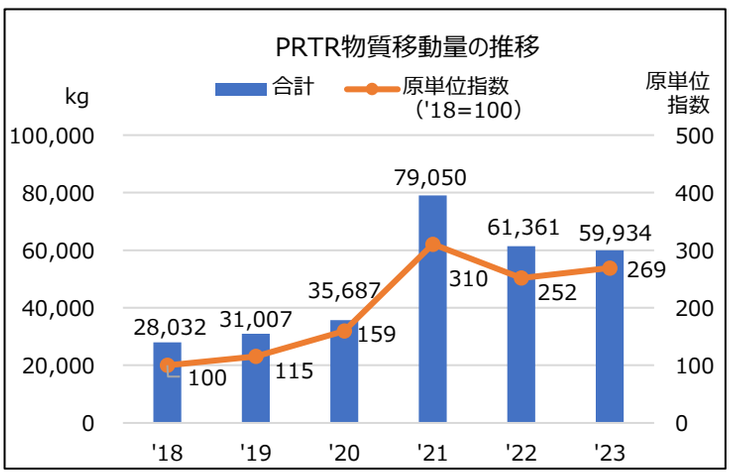






*対象期間2023年1月～2023年12月　*原単位は生産量（ﾄﾝ）で除した値とし、'18年度を100としています
*社内での測定結果を元に、稼働日数と稼働時間から年間の排出量を算定しています
*水質汚染物質は生分解性（物質が微生物によって分解される性質）の高い製品の生産が増えると増加します
*SS、BOD、CODの意味は「 P30/用語集」をご参照ください

■PRTR対象物質（PRTR対象化学物質の環境への移動量の推移）



PRTR対象物質の環境への移動量は、製品の成分、生産量、不良品の廃棄量によって大きく変化します。2023年度は不良品の廃棄は減少したものの、PRTR法の改正により対象物質が増加したため、前年度比で移動量合計は減少、原単位指数では増加となりました。

*対象期間2023年4月～2024年3月（経済産業省への報告年度）
*原単位は生産量（ﾄﾝ）で除した値とし、'18年度を100としています
*容器や洗浄廃液は産業廃棄物処理業者によって適切に処理されているため、環境への影響はありません
*PRTRの意味は「 P30/用語集」をご参照ください

	大気への排出	下水道への移動	廃棄物としての移動
'23	124kg	1,256 kg	58,554 kg

社　会
Social

社会活動に関する取り組みのトピックスを以下のようにまとめました

- 労働安全衛生マネジメントシステム
- 労働安全衛生目標
- 安全に対する取り組み
- 地域・社会との関わり
- 品質監査、安全衛生監査、環境監査

労働安全衛生マネジメントシステム

当社グループは「日華化学グループ全体の労働災害ゼロ」を経営の大きな柱の一つとして掲げ、労働安全衛生方針（下表参照）を定め、計画的に教育・訓練を実施し、全従業員が積極的な労働安全衛生活動を行うことで職場の安全衛生を確保しています。
日華化学単体としては、2019年12月にISO45001（労働安全衛生マネジメントシステム）の認証を取得しました。国内・海外の子会社へも常に情報を共有し、災害の再発及び未然防止に努めています。

■労働安全衛生方針

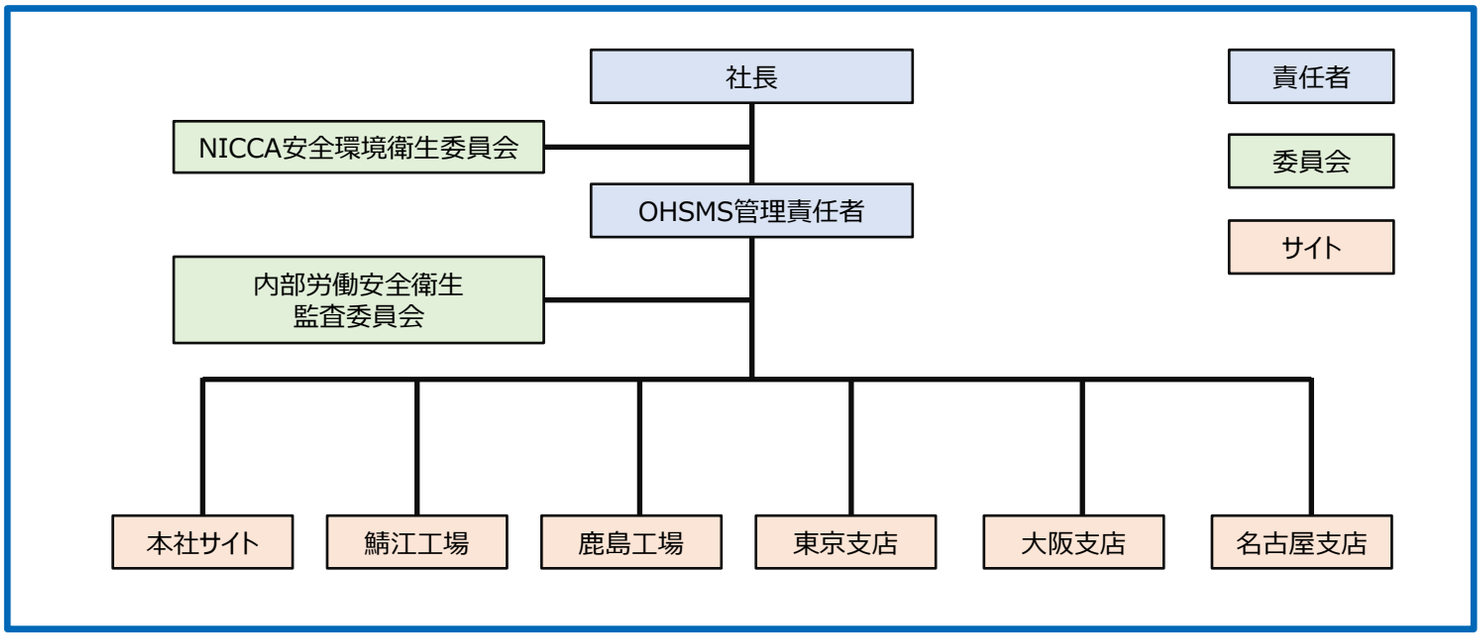
当社は化学メーカーとして、創業以来安全を最優先に社業に取り組んでまいりました。
これからも安全や健康を脅かすことの無い作業環境を確保し、従業員及び社会に「安心」を提供することに努め、
継続的に改善する管理体制を築いてまいります。

1. 全従業員参加の下、労働安全衛生に係わる法令を順守し、組織的に安全衛生活動を実施します。
2. 会社の安全衛生を継続的に改善するため、計画的に労働安全衛生活動を実施、評価、見直しを行います。
3. ヒューマンエラーを想定した上で、あらゆる危険有害要因を特定、排除し、快適な職場作りと労働災害ゼロを目指します。
4. 全従業員に健康の維持管理と増進の機会を積極的に提供します。

2019年4月1日
日華化学株式会社
代表取締役社長　江守 康昌

■労働安全衛生マネジメントシステム組織図

当社の労働安全衛生活動に関する管理体制は、社長が選任した労働安全衛生マネジメントシステム管理責任者（OHSMS管理責任者）のもと、各サイトごとに安全衛生活動を推進しています。OHSMS管理責任者は、毎年11月下旬～12月上旬の期間中に各サイトの活動状況を社長に報告し、社長から発信される次年度の活動方針を各サイトに指示しています。



日華化学株式会社

労働安全衛生目標

ISO45001認証を取得している各サイトは、全社共通の目標である「労働災害ゼロ」を達成するため、年間を通して様々な取り組みを実施しています。2023年度に掲げた目標と活動の達成状況は下記の通りです。未達となった目標は、次年度も取り組みを継続しています。

■サイト共通の安全衛生実施事項

【自己評価】〇：達成　△：一部分が未達　×：大きく未達または進捗無し

実施事項	サイト	実績	自己評価
PHS100運動の実践及び「ご安全に！」挨拶の推進 P：適正保護具の着用（Protector） H：階段の手摺り持ち（Handrail） S：安全通路の歩行（Safety path）	本社サイト	PHS100運動の実践目標：100%　実績：97.8%	△
	鯖江工場	PHS100運動の実践目標：100%　実績：99.8%	△
	鹿島工場	PHS100運動の実践目標：100%　実績：99.8%	△
	東京支店	常に整理整頓を行い支店内安全通路の確保を維持した	〇
	大阪支店	倉庫内の整理整頓に努めたものの不十分であった	△
	名古屋支店	机間の通路確保を重点的に実施した	〇
リスクアセスメント*シートの最新版管理及び再発防止・未然防止対策の実行	本社サイト	事故の再発0件	〇
	鯖江工場	洗い出した高リスクは全て改善済み。中リスクの一部が未完了。	△
	鹿島工場	高リスク1件未完了、類似事故の発生1件	△
	東京支店	産業医巡回時の指摘事項をリスクアセスメントシートに反映し、全て対応済み	〇
	大阪支店	産業医巡回時の指摘事項をリスクアセスメントシートに反映し、全て対応済み	〇
	名古屋支店	発生したヒヤリハットをリスクアセスメントシートに反映し、全て対応済み	〇
社員の健康維持のための健康経営活動の実施	本社サイト	産業医による健康診断結果の確認および再検査指導の実施	〇
	鯖江工場	暑さ指数の見える化を実施	〇
	鹿島工場	ストレスチェックで優秀な成績を達成	〇
	東京支店	共有スペースの継続的な消毒の実施	〇
	大阪支店	共有スペースの継続的な消毒の実施	〇
	名古屋支店	産業医による生活指導改善指導の実施	〇
労働安全衛生関係法規の順守	本社サイト	労働安全衛生関係法規の改正対応済み	〇
	鯖江工場	労働安全衛生関係法規の改正対応済み	〇
	鹿島工場	労働安全衛生関係法規の改正対応済み	〇
	東京支店	定期健康診断受診率 100%	〇
	大阪支店	定期健康診断受診率 100%	〇
	名古屋支店	定期健康診断受診率 100%	〇

*職場にある危険性や有害性を特定し、その危険性や有害性が労働災害につながる可能性と労働災害の程度の度合い（リスク）を見積り、評価すること

日華化学株式会社

■サイト個別の安全衛生実施事項

【自己評価】〇：達成　△：一部分が未達　×：大きく未達または進捗無し

サイト	実施事項	実績	自己評価
本社サイト	道路交通法「アルコールチェック」の徹底	乗車前チェックの記入漏れ0件	○
	作業場の照度基準確保	定期的な照度測定を実施し、問題が無いことを確認済み	○
鹿島工場	作業環境の測定*1 ・第3管理区分0件 ・第2管理区分0件	全て第1管理区分であることを確認済み	○
	安全に対する弱みの改善として5S*2評価の実施	全ての職場で目標達成	○
	不具合の早期改善活動実施	4ヵ月以上の未改善箇所無し	○
	安全討議の実施/安全実技体験講座の実施	近隣工場で実施されている安全実技体験講座に参加	○

*1作業環境測定は、有機溶剤を扱う屋内現場や騒音が発生する作業現場において、作業環境の実態を把握するために行なう調査と分析のことで、作業環境の状態を第1管理区分、第2管理区分、第3管理区分に区分して評価する
・第1管理区分：作業環境管理が適切にできている状態
・第2管理区分：作業環境管理に改善の余地がある状態
・第3管理区分：作業環境管理が適切でない状態

*2各職場において徹底するべき5つの項目、「整理」、「整頓」、「清掃」、「清潔」、「躾（しつけ）」のこと

安全に対する取り組み

当社グループは安全・安心な職場を作るため、全社員が積極的に様々な安全衛生活動を実施しています。

職場の労働災害を防ぐためには、職場における安全確保に向けた取り組みはもとより、全従業員が「安全」について意識を持つことが重要です。より確実に安全・安心な職場を構築するため、日華化学単体（本社サイト、各工場、各支店）では、ISO45001の認証を受け、安全衛生活動を推進しています。また、日華化学単体だけではなく、グループ全体にもこの活動を展開し、「日華化学グループ全体の労働災害ゼロ」を目標に掲げています。単体も含めたグループ全拠点に対するプロダクション監査等を年に１回実施し、各拠点の安全衛生活動で不十分な点を指導する等により、さらなるレベルアップに努めています。

こうした活動の成果として、安全に対する意識はかなり向上してきているものの、まだ目標である「日華化学グループ全体の労働災害ゼロ」は達成できていない状況です。発生した事故に対しては、原因を徹底的に究明し、再発防止活動及び他拠点への水平展開を推進しています。今後も、労働災害発生を防止するため、グループ全体の更なる安全衛生活動の推進に努めてまいります。

休業労災発生件数

年度	2019	2020	2021	2022	2023
日華化学単体	0	0	0	1	0
グループ会社	7	3	1	0	3
合計	**7**	**3**	**1**	**1**	**3**

また、毎年、サイト（本社、鯖江工場、鹿島工場）ごとに、地震や火災を想定した防災訓練を実施しています。

さらに、サイトごとに自営消防隊を組織し、災害初期の安全・確実・迅速な活動により被害を最小限にするべく初期消火技術の向上に努めており、各地域における事業所対抗での消火技術等を競う大会においては、優秀な成績を収めています。

防災訓練の様子（本社サイト）

鯖江市消火技術大会に出場した際の様子

海外生産拠点の安全に対する取り組み

海外の生産拠点でも防災訓練をはじめとした、安全に対する様々な取り組みを実施しています。

「NICCAグループ安全の日」に、安全掲示や安全クイズなど様々な活動を実施（タイのSTC NICCA CO., LTD. ）

外部講師を招いた安全講習会の実施（中国の日華化学（中国）有限公司）

消火訓練の実施（インドネシアのPT. INDONESIA NIKKA CHEMICALS）

地域・社会との関わり

当社グループは地域社会との繋がりを大切にし、環境活動、地域共生、次世代育成など、事業を活かした取り組みや地域の課題に応える活動を通じて、社会の持続的発展に貢献してまいります。

■事業所周辺地域の清掃活動

本社のある福井県では「クリーンアップふくい大作戦」、鹿島工場のある茨城県神栖市では「環境美化の日、クリーンかみすの日」を実施しています。当社もこうした取り組みに賛同し、事業所周辺の清掃活動を実施しています。
また、海外の子会社においても定期的に事業所周辺地域の清掃活動を実施しています。

鯖江工場周辺道路の清掃活動

鹿島工場周辺道路の清掃活動

■地域社会とのコミュニケーション

当社は、地域の小中学校、高校、大学からの要望を受け、職場見学・体験等の受け入れを行っており、2023年度は延べ16校、約350名の生徒・学生の皆様に来社いただきました。
学校や地域のニーズは、社会情勢に応じて変化してきており、企業の仕事の内容の体感、地域の繊維産業や先進企業の研究、環境問題への関心、SDGsへの主体的な参画など、テーマがより具体的になっているのが最近の傾向です。このような状況を踏まえ、当社では、ものづくりの疑似体験（シャンプー工房など）や生活に即した界面カガクの実験、繊維のアップサイクルの実演など、多様なプログラムを体験いただけるようにしています。
企業の研究者らがどのような働き方をしているのか、様々な職種の社員がどのように連携して業務を行っているのかなど、実際に交流していただくことが実践的な理解に繋がっています。このような継続した繋がりこそが、当社に相応しいCSR活動と考えています。

トリートメント作りで界面科学を体験

理系生徒と当社研究員とのディスカッション

■美容師・サロン関係者様向けの講習 / キュアリストの育成 / 奨学金制度設立

DEMI COSMETICS（デミ コスメティクス）は、「商品の知識だけではなく、お客様に役立つ頭皮や髪の知識を提供する」という考えのもと、美容師・サロン関係者様向けの講習に力を入れています。

近年ではオンラインでのセミナーを強化しており、美容師・サロン関係者様の時間効率にも配慮しております。

また、EraL（イーラル）ではヘッドキュアのスペシャリストであるキュアリスト*育成に力を入れているほか、2021年には美容室の未来及び美容を目指す若者をバックアップすることを目的とした、独自の奨学金制度を設立しています。2023年12月末現在で、支給対象の美容専門学校は５校で、10名に対して奨学金を給付しています。

*EraL（イーラル）の認定を受けた専門スタッフで、修練を積んだヘッドキュア技術（頭皮のコンディションを整えるプログラム）と頭皮や髪の専門知識を習得したスペシャリスト

オンラインセミナーでは、商品、頭皮、髪など、お客様に役立つ知識や情報を、研究責任者が直接解説しています

ヘッドキュアの様子
頭皮と髪のスペシャリストを育成する「キュアリストアカデミー」を毎年実施しています

■留学生への支援

当社の会長であった故江守幹男は、アジア諸国から福井県内の国公立大学に進学または在学する留学生に学資の補助として奨学金を支給することを目的として、1994年に公益財団法人江守アジア留学生育英会を設立しました。

2023年度は22名の応募があり、福井大学から9名、福井県立大学から9名の計18名（出身国別では、中国15名、ベトナム2名、韓国1名）が奨学生として選ばれました。

認証式の様子

■福井県内での手指消毒剤「エコルセ」の無償提供

様々な感染症リスクが懸念される中、当社は福井県内の公共施設、展示会やスポーツイベントの会場等に対し、手指消毒剤「エコルセ」*を無償提供させていただきました。

*手指消毒剤「エコルセ」は、日々の消毒が欠かせない介護従事者の悩みを受け、当社グループ会社である山田製薬㈱にて2011年に誕生しました。医薬部外品としての消毒効果に加えて、4種の保湿成分が潤いを保ち、手肌のバリア機能をサポートします。消毒後すぐに作業が出来るさらさらな使い心地も特徴です。

手指消毒剤「エコルセ」

品質監査、安全衛生監査、環境監査

当社グループの品質、環境、安全衛生に関係する内部監査*1を大きく分類すると、「ISO*2内部監査」と「グローバル監査」があります。それぞれの内部監査は毎年必ず実施し、業務上の不正防止や業務効率化の状況を確認し、改善を推進することで、当社グループ経営理念の実現に役立てています。

*1会社内部の人間が行う監査のことで、業務上の不正の防止や、業務の効率化目的で実施します
*2スイスのジュネーヴに本部を置く非営利法人「国際標準化機構」が定めたマネジメントシステムの国際
「ISO----」などの番号によって整理され、数字によって管理する内容が異なります
ISO9001は「品質」、ISO14001は「環境」、ISO45001は「労働安全衛生」、ISO22716は「化粧品の品質と安全性」に関する国際規格です

種類	内部監査の中で確認する内容
ISO内部監査 ・ISO9001（品質） ・ISO14001（環境） ・ISO45001（労働安全衛生） ・ISO22716 （化粧品の品質と安全性）	ISOに基づく内部監査は、ISOを取得しているサイト単位で実施しています。 ISOを取得しているサイトは「P29/ISOマネジメントシステム認証取得状況」をご参照ください。 ＜確認事項＞ ・ISO規格に適合しているか ・ISOマネジメントシステムが有効に働いており効果が出ているか ・ISOマネジメントシステムに問題が生じていないか
プロダクション部門（生産部門）と品質保証本部によるグローバル監査	グローバル監査は、当社グループ国内外の生産拠点を監査対象として、品質、安全衛生、環境、法令の順守状況と、その仕組みを守るための責任者と管理者を育成するために実施しています。 ＜確認事項＞ ・法令に対応しているか、品質、安全衛生、環境を維持向上させる仕組みができているか ・品質保証と品質管理がグローバルで統一されているか ・人身事故、環境事故などに対して再発しない仕組みが構築されているか ・全生産拠点で統一決定した活動項目をどのように展開しているか ・火災や地震などが起きた際に、誰一人として死傷しないよう教育・訓練を実施しているか

内部監査に関する情報は、国内外の生産拠点間で共有しています。1つの事柄に対しても違った視点で見ることで新たな気付きへと繋がり、改善は更に加速します。

また、こうした内部監査の評価結果、改善の実施状況と改善による効果は速やかに経営層に報告しています。

グローバル監査の様子（NICCA KOREA CO., LTD.大邱工場）
プロダクション部門（生産管理部、品質管理課）と品質保証本部が
製品品質、環境保全、労働安全衛生、法令順守など、
それぞれの目線で国内外の生産拠点を監査します

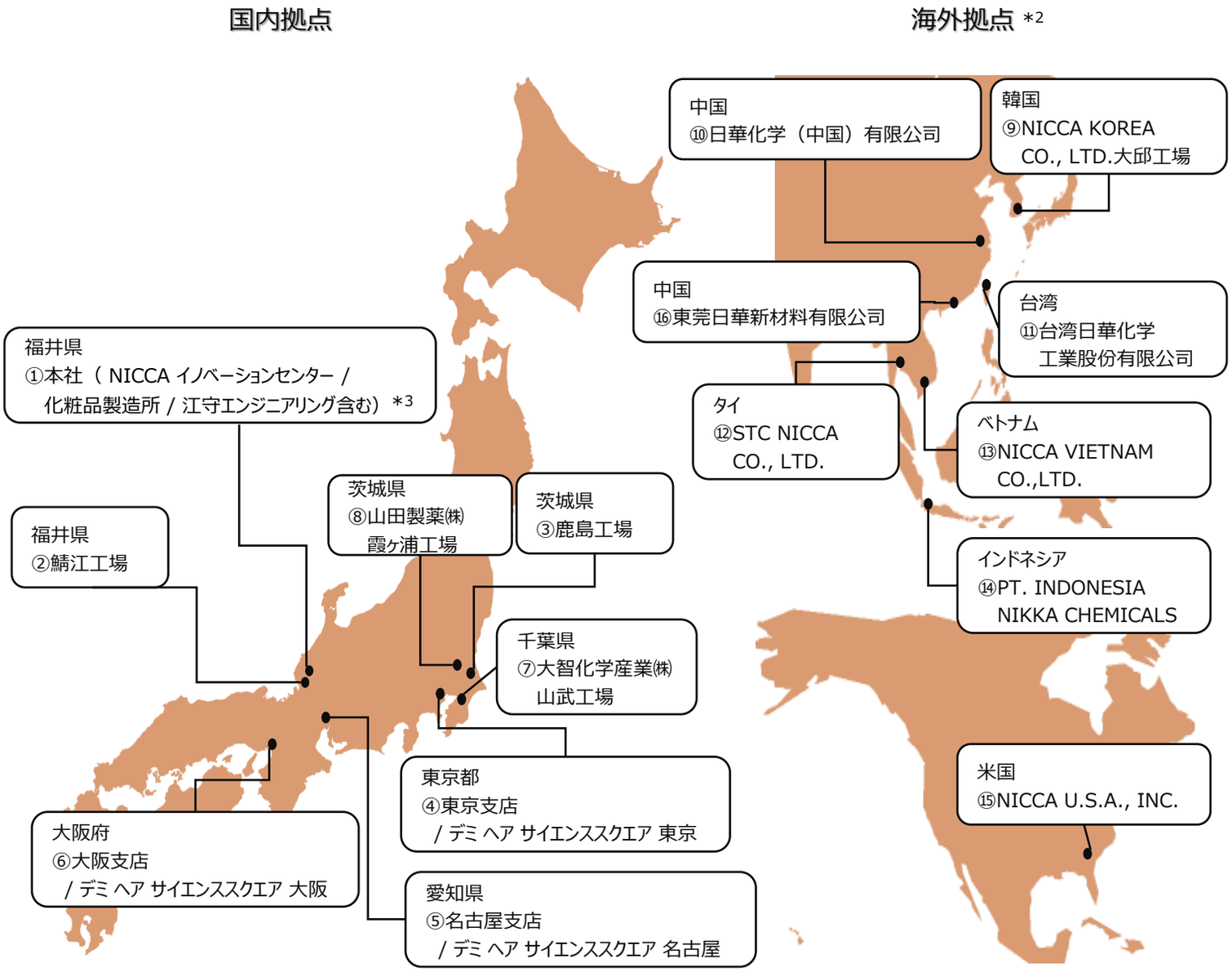
福井県鯖江工場にて行ったISO45001（労働安全衛生）内部監査の様子
ISO45001（労働安全衛生）の内部監査では、ISO45001の規格に基づいて、職場に負傷や疾病に繋がるような危険は潜んでいないか、
負傷や疾病の防止対策がなされているか、安全で健康的な職場環境となっているかを監査します

Appendix

- ISOマネジメントシステム認証取得状況
- 用語集

ISOマネジメントシステム認証取得状況

当社グループではISOマネジメントシステム*1を改善の有効なツールとして活用し、主力工場から順次導入し活動しています。
当社グループのISOマネジメントシステム認証の取得状況は以下のとおりです。ISOマネジメントシステムを改善のツールとして有効に活用し、更なるレベルアップを目指してまいります。



位置	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
ＩＳＯ９００１	○	○	○	○	○	○	○	–	○	○	○	○	○	○	○	○
ＩＳＯ１４００１	○	○	○	–	–	–	○	○	○	○	○	○	○	○	–	○
ＩＳＯ４５００１	○	○	○	○	○	○	○	–	○	○	○	–	–	○	–	○
ＩＳＯ２２７１６	○	–	–	–	–	–	–	○	–	–	–	–	–	–	–	–

*1スイスのジュネーヴに本部を置く非営利法人「国際標準化機構」が定めたマネジメントシステムの国際規格
「ISO----」などの番号によって整理され、数字によって管理する内容が異なります
ISO9001は「品質」、ISO14001は「環境」、ISO45001は「労働安全衛生」、ISO22716は「化粧品の品質と安全性」に関する国際規格です
*2海外は生産拠点のみが対象となります
*3本社のISO22716認証範囲は化粧品関連部署のみとなります

用語集

用語集では、より補足が必要な用語について記載しています。

BOD（BIOCHEMICAL OXYGEN DEMAND）	生物学的酸素要求量を意味する水の汚染を表す指標で、水中の微生物が有機物を分解する際に消費する酸素量のことです。汚水処理では、最も重要な指標のひとつで、環境基準では河川の汚濁指標として採用されています。BOD値が大きいほど水中の酸素欠乏度合いが高くなることを意味しており、水質の汚濁が進み、悪臭が発生するなど、生物が棲みにくい環境になります。
COD（CHEMICAL OXYGEN DEMAND）	化学的酸素要求量を意味する水の汚染を表す指標で、環境基準では海域及び湖沼の閉鎖性水域の汚濁指標として採用されています。CODでは微生物の替わりに化学物質を使って水の中の酸素量を調べます。COD値が大きいほど水中の酸素欠乏度合いが高くなることを意味しており、水質の汚濁が進み、悪臭が発生するなど、生物が棲みにくい環境になります。
NOx（窒素酸化物）	一酸化窒素、二酸化窒素、亜酸化窒素、三酸化二窒素、四酸化二窒素、五酸化二窒素などの総称。燃料を高温で燃やすことで、燃料中や空気中の窒素と酸素が結びついて発生します。工場や火力発電所、自動車、家庭など発生源は多様です。NOxは光化学スモッグや酸性雨、喘息の原因となり、NOx排出量が大きいほど大気を汚染しているということになります。
Nm^3（ノルマルリューベ）	空気量の単位で、標準状態（０℃、１気圧）を表すもので、主として排出ガス量等を表す場合に用いらえます。１Nm^3とは、標準状態（０℃１気圧）に換算した1m^3のガス量を表します。
PRTR（POLLUTANT RELEASE & TRANSFER REGISTER）	人の健康や生態系に有害なおそれのある化学物質が、事業所から環境（大気、水、土壌）へ排出される量、廃棄物に含まれて事業所外へ移動する量を、事業者が自ら把握し国に届け出をし、国は届出データや推計にもとづき、排出量・移動量を集計・公表する制度（PRTR制度）が2001年4月に施行されました。2002年4月より指定化学物質の排出量・移動量の届出が義務づけられ、経済産業省より公表されています。
SOx（硫黄酸化物）	一酸化硫黄、二酸化硫黄、三酸化硫黄などの総称で、石油や石炭などの化石燃料が燃える際に発生します。日本では高度経済成長の時代に、工場からの煙などに含まれる硫黄酸化物による大気汚染が進行し、大きな問題になりました。SOxは酸性雨や喘息の原因となり（代表的な例として、四日市喘息が挙げられます）、Sox排出量が大きいほど大気を汚染しているということになります。
SS（SUSPENDED SOLIDS）	浮遊物質または懸濁物質を意味する水中に浮遊する不溶解性物質の総称で、水質測定項目の1つです。SSは水質汚染の原因となり、魚類や水生植物に障害を与えます。工場排水、家庭排水などが河川に流出することによってSS量が大きくなり、水の透明度や水質の悪化を招きます。また、SSそのものが魚類のえらを塞ぎ、へい死（動物が突然死ぬこと）の原因となります。
VOC（揮発性有機化合物）	塗料、印刷インキ、接着剤、洗浄剤、ガソリン、シンナーなどに含まれるトルエン、キシレン、酢酸エチルなどが代表的な有機化合物であり、揮発性を有し、大気中で気体状となります。光化学スモッグを引き起こす原因物質の1つとされています。
煤塵（ばいじん）	石油や石炭を燃料とするボイラー、自動車や発電用のディーゼルエンジン、廃棄物焼却炉などから排出される粒子状物質で、物が燃えた際に発生・飛散する微細な物質のこと。

日華化学株式会社
NICCA CHEMICAL CO.,LTD.

〒910-8670　福井県福井市文京4-23-1
TEL :0776-24-0213（代）　FAX :0776-21-9227

当社の詳細についてはコーポレートウェブサイトをご参照ください
https://www.nicca.co.jp/

日華化学　検索

▲QRコードからもコーポレート
ウェブサイトにアクセスできます